

## 主題：神の王国の実際の中に生きる

メッセージ 14

### 神の主権の下に生き、神のあわれみにしたがって生きる

聖書・啓 4:11. ダニエル 4:3, 34-35. 哀 5:19. ローマ 9:15-16, 18-23. ヘブル 4:16

#### I. わたしたちが神の主権のビジョンを見ることは、極めて重要です——ダニエル4:3, 34-35. ローマ9:18-23 :

A. 主権は、神の無限の権威、力、地位を指しています——啓 4:11. 5:13。

1. 神は主権ある方として、万物の上に、万物の背後に、万物の中におられます——列王上 22:19。
2. 神は、彼の心の願いにしたがって、また彼の永遠のエコノミーにしたがって、彼が欲することを遂行する満ち満ちた能力を持っています——ダニエル 4:34-35. エペソ 1:4-5, 9-11。

B. ローマ第9章 19節 23節は、神の主権を指しています :

1. 「みこころを拒むことが、だれにできましようか? しかし人よ、あなたは何者なので、神に口答えするのですか? 形造られたものが、それを形造った者に向かって、『なぜあなたは、わたしをこのように造ったのか?』と言えるでしょうか?」—— 19 後半-20 節 :
  - a. わたしたちは、わたしたちがだれであるかを認識する必要があります。わたしたちは神の被造物であり、彼はわたしたちの創造主です——イザヤ 42:5。
  - b. 神の被造物として、わたしたちは彼の定められた御旨に抵抗したり、創造主である彼に口答えしたりすべきではありません——ローマ 9:20。
2. 「陶器師は土くれに対して、同じかたまりから一つを尊い器に、もう一つを卑しい器に、造る権威を持っていないのですか?」—— 21 節 :
  - a. 神は陶器師であり、わたしたちは彼の御手の中にある土くれです。陶器師である神が主権を持っています——エレミヤ 18:1-6。
  - b. わたしたちの神は陶器師として、わたしたちに対して絶対的な権利を持っています。わたしたちに関して、彼はご自身が願うことは何でも行なう権利を持っています——イザヤ 29:16. 64:8。
  - c. 神は望むなら、一つを尊い器に、もう一つを卑しい器に作ることができます——ローマ 9:21。
3. ローマ第9章 21節から 23節は啓示していますが、神はご自身のあらかじめ定めることにしたがって、主権を持ってわたしたちを創造し、ご自身を入れるものとならせました——Ⅱコリント 4:7. Ⅱテモテ 2:20-21. エペソ 1:5, 11 :
  - a. 神の主権のゆえに、陶器師である彼は、ご自身を入れるあわれみの器を創造することによって、ご自身の栄光の豊富を知らせます——ローマ 9:23。
  - b. 尊い器であることは、わたしたちの選択の結果ではありません。それは神の主権から生じます—— 21 節。

c. 神の主権は彼の選びの基礎です。彼の選びは彼の主権にかかっています—— 11, 18 節. 11:5, 28。

4. 「しかも、栄光へとあらかじめ用意しておられたあわれみの器に、彼の栄光の豊富を知らせようとされたとすれば、どうなのですか？」—— 9:23 :

a. 神は彼の主権において権威を持っており、彼が選んで召した者たちをあわれみの器とし、彼の栄光を現します—— 11, 18, 23-24 節。

b. 彼の主権ある権威にしたがって、彼はわたしたちを栄光へと用意しました。—— 23 節 :

(1) わたしたちは彼の主権によって、彼の内容となるようにあらかじめ定められました。

(2) これは神に対するわたしたちの有用性の頂点、すなわち、神の主権にしたがった神の選びの目標です—— 11, 18 節。

C. 一方で、神がパロの心をかたくなにしました (出 4:21. 7:3. 9:12. 10:1, 20, 27. 11:10. 14:4, 8)。他方で、パロ自身が自分の心をかたくなにしました (8:15, 32. 9:34) :

1. これが示しているのは、神は主権ある方であり (ローマ 9:14-24)、人には神が創造した自由意志があるので、自分の行動に対して責任があるということです。

2. 神の主権と人の自由意志は一致しており、矛盾していません。

3. 神はまず彼の主権において、パロの心をかたくなにし (出 4:21)、パロは自分自身の自由意志を通して、このようにかたくなにすることを遂行しました。

D. 「エホバよ、あなたは永遠にいまし、あなたの御座は代々に至ります」——哀 5:19 :

1. 19 節において、エレミヤは彼の立場と角度を自分自身から神に転向しました。それは神の永遠の存在と不変の行政を指しています。

2. エルサレムは覆され、宮は焼かれ、神の民は連れ去られました。しかし、エホバ、宇宙の主はなおも彼の行政を執行しています。

3. 神の永遠の存在と彼の御座は、彼の慈愛、あわれみ、信実よりも高いのです。神の慈愛とあわれみは変動するかもしれませんが、神のパーソンと彼の行政は永遠に変わりません—— 3:22-23. 5:19。

4. 新エルサレムで、神は彼のパーソンと行政において完全に明らかにされます。彼のパーソンは永遠の王であり、彼の行政は彼の永遠の、揺り動かされない王国です。この両者は、神が彼の民を対処することでの揺り動かされない土台です——ヘブル 12:28. 啓 22:3。

II. 「わたしは自分があわれもうとする者をあわれみ、……ですから、それは人が決意することによるのではなく、走ることによるのでもなく、神があわれみを示されることによるのです」——ローマ9:15前半, 16 :

A. あわれみは、神の属性のうちで最も遠くまで届き、彼の恵みと愛よりも先まで行きます——マタイ 9:13 :

1. わたしたちの生まれながらの状態によれば、わたしたちは神から遠く離れており、彼の恵みに全くふさわしくなかったのです。わたしたちには神のあわれみを受けだけの資格しかありませんでした——エペソ 2:4。

2. 人の不従順は、神のあわれみに機会を与え、神のあわれみは、人に救いをもたら

しました——ローマ 11:32。

- B. わたしたちの観念は、決意する者が、得ようと決意するものを得て、走る者が、そのために走るものを得るということです—— 9:16 :
1. もしこれが事実なら、神の選びは、わたしたちの努力や労苦にしたがったものとなるでしょう。
  2. そうではなく、神の選びは、神があわれみを示されることによります。わたしたちは決意したり、走ったりする必要はありません。なぜなら、神がわたしたちをあわれんでいるからです。
  3. わたしたちは神のあわれみを知るなら、わたしたちの努力に信頼したり、わたしたちの失敗によって失望したりしないでしょ。わたしたちの悲惨な状態に対する望みは、神のあわれみの中にあります——エペソ 2:4。
- C. わたしたちは、神の新約エコノミーにおいて神に仕えようとするなら、それが完全に神の主権あるあわれみの事柄であることを知る必要があります——ローマ 9:15-16. ヘブル 4:16 :
1. わたしたちは、神の主権を知っているなら、神のあわれみのゆえに神に感謝し、自分が神の主権あるあわれみの下にいることを認識します——ローマ 9:15 :
    - a. 「主権あるあわれみ」という表現は、神のあわれみが完全に神の主権の事柄であることを意味します。
    - b. あわれみの器であることは、わたしたちの選択の結果ではありません。それは神の主権から生じます—— 18 節。
    - c. わたしたちに対する神のあわれみは、彼の主権の中にあります。わたしたちが神のあわれみを説明するために言うことができるのは、彼の主権において、彼がわたしたちにあわれみ深くあることを選んだということです—— 15-16, 23 節。
  2. 神の主権あるあわれみにおいて、わたしたちの心は彼に傾いています。わたしたちに対する彼のあわれみのゆえに、わたしたちは日ごとに彼を尋ね求めます——エレミヤ 29:13. 申 4:29. イザヤ 55:6。
  3. わたしたちは、わたしたちに関係のあるすべてのことが神のあわれみの事柄であることを見れば見るほど、ますます主の御前で責任を担うようになります。しかしながら、わたしたちが進んで責任を担おうとすることでさえ、神のあわれみです。
  4. 神のあわれみのゆえに、他の人たちは福音に応答しませんでした。わたしたちは福音に応答しました。また他の人たちが命としてのキリストについての言葉を拒絶しましたが、わたしたちはそれを受け入れました。そして他の人たちが主の回復の道を取らずに後ずさりしましたが、わたしたちはこの道を取りました。
  5. 神の回復に関して、神はご自身があわれもうとする者をあわれみます。
- D. ローマ第 9 章が啓示しているのは、すべては神のあわれみにかかっているという原則です—— 15-16 節 :
1. 使徒パウロはこの原則をイスラエル人に適用し、彼らに起こったすべてのことは神のあわれみであるということを示しました—— 16, 23 節。

2. わたしたちが神のあわれみを見て、神のあわれみに具体的に触れる時が、少なくとも一度なければなりません——エペソ 2:4. マタイ 9:13。
- a. この事柄に関して、少なくとも一度わたしたちの目が開かれる必要があります。わたしたちはすべてが神のあわれみにかかっていることを見る時が、少なくとも一度なければなりません。
- b. わたしたちがこのことを一度で見ても、あるいは過程を通して認識しても、わたしたちはこの事柄に触れるときすぐに、感覚ではなく、事実に触れます。この事実は、すべてが神のあわれみにかかっているということです。
- E. 「ですから、わたしたちがあわれみを受け、また時機を得た助けとなる恵みを見いだすために、大胆に、恵みの御座に進み出ようではありませんか」——ヘブル 4:16。
- F. 父なる神は、彼の主権においてわたしたちをあわれみました。ですから、わたしたちは彼の主権あるあわれみのゆえに、彼を賛美し礼拝しなければなりません。
1. 「わたしは今、あなたのあわれみが永遠に古くならず、常に新しいことを享受します。毎朝わたしに臨み、朝露のように潤いを与えます。何と甘いことでしょうか、何と甘いことでしょうか、心を尽くしてあなたのあわれみを賛美します。全心であなたのあわれみを賛美します」——詩歌全訳 22 番の 5 節。
2. 「父よ、あなたのあわれみとあなたの恵み、慈愛を、わたしはすでに味わいました。あなたのこのあわれみは、あなたの臨在と御顔をもたらします。あなたのあわれみのゆえに、わたしは今あなたにひれ伏して礼拝し、あなたのあわれみを賛美し、世々にわたって歌いほめたたえます」——詩歌全訳 23 番の 3 節。